

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	決算特別委員会(全体)		会議場所 全員協議会室 担当職員 阿久根由美子
日 時	平成23年9月27日(火曜日)		開 議 午前 11 時 15 分 閉 議 午後 2 時 54 分
出席委員	菱田委員長、吉田副委員長、全委員		
執行機関出席者	なし		
事務局出席者	今西局長 藤村次長 三宅主任 八木主任 阿久根		
傍聴	可	市民 3名	報道関係者 名 議員 名

会 議 の 概 要

1 1 : 1 5

1 開議

〔委員長 開議〕

〔事務局日程説明〕

2 決算審査

(1) 分科会委員長報告・質疑

〔西村総務文教分科会委員長報告〕

〔吉田環境厚生分科会委員長報告〕

〔西口産業建設分科会委員長報告〕

1 1 : 3 6

〔質 疑〕

<立花委員>

(総務文教分科会委員長報告に対する質疑) 収納率が向上し地方税機構の役割を評価されていたが、市税収入は落ち込んだ。矛盾しているのではないか。分科会ではどのように評価したのか。

<総務文教分科会委員長>

収納率は上がっている。

<立花委員>

収納率が向上すれば税収にも影響が出るのではないのか。

<総務文教分科会委員長>

そのような議論はしていない。

<立花委員>

議論の有無ではなく、税収が上がれば地方税機構の役割は果たせていると理解も出来る。

<総務文教分科会委員長>

収納率が向上したことで地方税機構の効果はある。

11 : 40

[休憩]

13 : 00

(2) 事務事業評価

[総務文教分科会分]

<委員長>

各分科会の評価結果について議論を深め提言としてまとめ、決算認定のあと附帯決議にする考えである。

<立花委員>

(学校施設管理経費)問題は以前から発生していた、22年度はどうだったか重点質疑すればよいと思っている。

<委員長>

重点質疑の議題に入ったところで整理する。

<中澤委員>

(教育研究所事業経費)評価結果が「縮小」であるが、場所が課題なのか。大量退職、大量採用の教員の現状から資質が問われている、教育研究所は内容が充実している、縮小の意味は何か。

<総務文教分科会委員長>

施設の老朽化のこともあるが、教育研究所の事業内容が分かりにくい。経費の見直しが必要である。場所の面ではやまびこ教室の送迎が大変である。これらを踏まえ「縮小」と判断した。

<眞継議員>

(教育研究所事業経費)人材育成において費用対効果を考慮するように、文言からは読み取れるがどうか。

<総務文教分科会委員長>

人を育てることは一定理解している。運営面での費用対効果のことを述べている。

<眞継委員>

「教育は人を育てる」とあるので、(文言から)人材を縮小するのかと感じた。

<酒井委員>

ふれあい教室ややまびこ教室を別の場所に、ということなら、評価は「改善」とすれ

ばよい。

<事務局長>

ふれあい教室が図書館にあるのは、交通の便と不登校の子どもが自然な形で入っていけるように考えられたものである。

<井上委員>

教育研究所の事業内容、効果は上がっているのか分からない。

<日高委員>

当初目的は教員の研修所である、財源は府支出金、問題を抱えるこどもの自立支援に関する補助金等で賄われている。教育研究所は市独自で設置しているが、市がしなくてもよいのではないかと思う。教員は現場で子どもと接している方が不登校は減り効果があるので「縮小」と判断した。

<苗村委員>

やまびこ教室は交通の利便のよいところに移して、教育研究所の事業は「縮小」と受け止めたが、どうなのか。

<日高委員>

研究所まで作って教員研修を行うことは本来必要ではない。

<苗村委員>

場所の問題のようにまとめられている。

<堤委員>

施設の設置当初の経過、OSU 京都校問題などもあり、使途を考えて教育研究所にされた。教員研修が最たる目的。その効果を考えれば教員研修の場所としてはここでなくてもよい。国際広場球技場、野鳥の森等で神前財産区に敷地料を年間約400万円、緑花協会に管理委託料を年間184万円支払っている、検討してもよいのではないか。

<藤本委員>

文言の修正は要と思う。

<馬場委員>

球技場の件は別の問題である。総務文教常任委員会で調査するべき。

<堤委員>

別問題ではない、施設は一体のもの、理事者の説明を求めたい。維持管理の対価に見合う事業効果がない。

<立花委員>

事務事業評価は教育研究所事業が対象。

<堤委員>

主は教育研究所事業であるが、一連のこととして含まれる。

<中澤委員>

教育研究所事業が「縮小」かどうかと確認をさせていただいた。表現は見直すべき。

<木曾委員>

当初目的から変化している。事業の見直しを考えるべきである。交流活動センター廃止の話が生涯学習部からあった。教育研究所だけを残すのはどうか。事業縮小でなく、運営を今後どう考えるのかが問題である。

<副委員長>

場所で議論しているのか、教育研究所事業なのか、整理を。

<委員長>

教育研究所事業経費について議論願う。

<総務文教分科会委員長>

分科会ではエリア全体を含めての教育研究所の評価結果である。

<木曾委員>

施設はどうなるのか質疑を行ったところ、部長は将来的には民間に売らないと仕方ないと答弁した。

<副委員長>

事務事業評価の内容ではない。常任委員会で調査してはどうか。

<堤委員>

事務事業評価のなかで皆の意見をまとめた結果である。

<湊委員>

分科会でまとめられたものを改めて議論するのはどうかと思う。

<委員長>

委員会として、議会として合意を作るための議論である。

<堤委員>

分からないことは、会派のなかで聞けばよい。

<委員長>

教育研究所の表現はどうか。

<馬場委員>

(財団活動経費)産業建設分科会の事務事業評価結果の公園管理経費でもあがっているように指定管理者制度が問題である。ほかも含め指定管理者制度で事業評価すべき。生涯学習財団のハード事業、ソフト事業、理事等への給与はどうかを含めて事務事業を評価しなければならない。分科会の議論はどうだったのか。

<委員長>

まずは文言の修正について議論を。

<木曾委員>

分科会評価結果を「人を育てる～一定理解する」を「施設管理及び運営について」と置き換えてはどうか。(全員了)

<副委員長>

2 「経費」を「事業」としてはどうか。(全員了)

<委員長>

「事業」に変更する。

<馬場委員>

全体として指定管理者制度を評価してはどうか。重点質疑すればよいと思う。

生涯学習財団についての分科会の議論にはどのようなものがあったのか。

<総務文教分科会委員長>

分科会ではそこまで議論していない。

<馬場委員>

財団について引続き総務文教常任委員会で研究されるよう望む。

〔環境厚生分科会分〕

<堤委員>

シルバー人材センターは健康福祉部の所管、約 800 人が登録されている。個人経営者や土木業者などと、シルバー人材センターとが見積比較されると、シルバー人材センターに落札されてしまい、仕事がなくなっているという現状があるが、認識されているのか疑問である。

<副委員長>

国は推進の方向であるが、府の補助金は削減の方向である。市が増額して事業を行っている。補助が無くても運営できるよう自立すべきで、手法を考える必要がある。市からの補助金を受け取らず、独立して、一般の公益法人としてやるべき。補助金は徐々に削減するようというのが議論の結果である。

<堤委員>

市の補助を「縮小」という意味なのか。

<副委員長>

補助を縮小して、自立が必要という意味である。

<堤委員>

中小零細企業に仕事がまわるように考えることも政策課題である。

<副委員長>

企業の関係は産業建設分科会に所管になる。

〔産業建設分科会分〕

<産業建設分科会委員長>

分科会でもシルバー人材センターについて議論があった。シルバー人材センター以外の雇用施策にも努められたいと意見があった。指定管理制度を見直すことについても意見があった。

<委員長>

(一般図書館経費)ふれあい教室の文言が入っているがどうか。

<副委員長>

このままでよいと思う。

<委員長>

このままとする。

<藤本委員>

「ふれあい教室」は図書館業務ではないのか。

<委員長>

経費には含まれていた。

<総務文教分科会委員長>

図書館業務の本来の業務ではない。図書館なら他の業務でなく本来の業務を行うべき。

<苗村委員>

本来業務でないなら何故ここで意見が出たのか。放課後児童会のことも入るのではないのか。

<総務文教分科会委員長>

議論によってこのようになった。

14:00

(3) 重点質疑について

<委員長>

事務事業評価の範囲で理事者に意見を求め、さらに議論を深めるため、重点質疑をしてはどうかと考えている。項目をあげていただきたい。

<堤委員>

休憩し、会派会議を行い協議したい。

<局長>

事務事業評価の範囲内であげていただき、詳細に、具体的に項目をあげていただきたい。

14:03

[休 憩]

14:30

<明田委員>(改革かめおか)

- ① 教育研究所事業経費
- ② ごみ減量・資源化等推進事業経費
- ③ 商工業振興対策経費

<齊藤委員>

- ① 教育研究所事業経費
 - 施設設置の経緯
 - 土地利用の現状、経費
 - 事業効果
 - 今後の方針

<明田委員>

- ② ごみ減量・資源化等推進事業経費
 - 分別基準について市民に分かりやすく広報できていたか。
 - プラスチック系ごみを分別した場合の再利用方法は。
 - 事業者との連携の発生抑制の推進はどうか。

<福井委員>

- ③ 商工業振興対策経費
 - 地元中小業者への振興策の現状、効果
 - 企業誘致とは別立てで地元経済振興を図る条例は制定できないのか。

<湊委員>(緑風会)

- ①セーフコミュニティ推進事業経費
 - 安全安心のまちづくりが第一目的なのか、WHO再認証取得が目的なのか。
- ②財団活動経費
 - 指定管理による維持管理経費が膨大、この状況をいつまで続けるのか。市民理解を得るなかで、指定管理者制度を活用するなら指定管理者に今後は任せるなど考えを聞きたい。
- ③教育研究所事業経費
 - 敷地一体の今後の見通し
- ④ 火葬場等経費
 - 職員の処遇について今後の考えは。
 - 非常勤嘱託として1年契約更新で雇うより指定管理制度を導入して職員として

<馬場委員>(共産党議員団)

① 商工業振興対策経費(資産活用プロジェクト分)

- 募集の経過と結果
- 分科会の説明では工業団地に向かないという説明であったが、パンフレットでは工業団地として募集、経費をかけてパンフレットを作る必要があったのか。

② 学校施設管理経費

- 雨漏りの各学校の状況、修繕の考え方。
- 小規模修繕工事希望者登録制度を活用できなかったのか。

③ 商工業振興対策経費(経済部)

- N社に対する企業立地促進条例に基づく補助額は。雇用の実績は。
- リストラ、工場閉鎖等に対して市長のアクションは。

<立花委員>

小規模修繕工事希望者登録制度をなぜもっと活用できなかったのか。どうすればいいのか考えを。

<田中委員>

商工業振興対策経費(資産活用プロジェクト)について、パンフレットを事業主に配付、工業団地をあきらめるために作ったという説明であった。記載内容は既存のものを張り合わせたもの、委託してまで作るのは無駄である。

<日高委員>

① 庁舎維持管理経費

- 場当たりの修繕なので、営繕計画、費用は。
- 計画性はあるのか。

② 教育研究所事業経費

- 場所を変えても事業は続けるのか。
- 適応指導教室は場所を変えてもよいのでは、考えを。

<井上委員>

① 財団活動経費

- 費用効果、サービス低下はないか。

② シルバー人材経費

- 今後も補助を続けるのか、減額の考えはないのか。

③ 商工業振興対策経費(経済部)

- 大企業優遇の施策である、中小零細企業、個人事業者への振興策になっているのか、現状と対策。

<酒井委員>

① 教育研究所経費

○学習支援にも力を入れている、詳しい事業内容。

<委員長>

いま挙げられたものを理事者に通告し、明日答弁を求める。

14 : 48

(4) 現地調査について

<委員長>

実施するか、ご意見を。

<総務文教分科会委員長>

分科会では、国分寺跡と教育研究所の意見あり。

<立花委員>

過去に現地を調査している、任意の参加としてはどうか。

<湊委員>

任意でよいと思う。

<委員長>

全委員に出席していただく。

<馬場委員>

担当部の説明は求めるのか。

<委員長>

求める。

3 その他

なし

14 : 54 散会